第１回研究会　2016 年 6 月 18 日

土曜日の午後、記念すべき英語指導研究会　－SPALTAN ENGLISH－の第 1 回目が開催されました。忙しい中、11 名の参加がありました。簡単な自己紹介から会が始まりました。現場の先生だけでなく、指導主事の先生や大学生の参加もありました。また、弘前大学教育学部の野呂徳治先生にも参加いただくことができました。こうやってみると、こじんまりとしているようで、実は顔ぶれからすでに非常に内容の濃い研究会だなと思います。

第一回目は、まずは隗より始めよということで、私の昨年の授業を公開しました。授業展開ごとに、ビデオを止めて、参加者から意見や疑問点を挙げてもらい協議するという形をとっています。以降、そこで挙げられた意見をまとめていきます。

1.　Greetings, What Day?「英語であいさつをし、今日は何の日であるかについて、生徒に英語で話す。」

- 毎日行う活動です。そもそも、曜日や日付など分かりきったことをなぜ聞くのか？しかも、それは一斉でいいのか？個人にあてなくていいのか？コミュニケーションという言葉が叫ばれていますが、「みんながやっているから」、とか「これまでそうしてきたから」という理由だけで何の疑問の抱かずにそれをそのままやるのが一番いけないというのが私の大事している言葉です。

　以下、参加者から出された意見や質問です。

- 授業前に映画を見せているが、年間で何本くらい見せるのですか？
- ２～３か月で１本のペースになります。聞き取りの力をつけるなどという英語的な意味合いよりも、しっかりチャイム着席して、怒らずに授業を始めたいという生徒指導上の意味合いが強いです。

- 1 分間生徒がペアで会話しているとき、生徒がどんな英語を話しているか、また間違った英語を話しているなどの把握はできているか？
- 1 分間の後、教師と生徒が 30 秒間会話する時間があるのでその時にチェックします。

- （授業のあった）3 月 3 日は「ひな祭り」で生徒にとっても会話しやすいトピックであるが、365 日あれば、生徒が会話できそうなトピックがない日もあるのではないか？
- 入試を意識しています。当然「世界人権デー」や「エゴバックの日」など 1 分間会話するには難しいトピックの日もあるが、毎日継続していることで、生徒はちょっと「むちゃぶり」のようなテーマが出ても 1 分間なんとか会話を継続できるようになっています。これを 3 年間継続すれば、入試の自由英作文で多少書きにくいテーマが出題されても、問題なく書くことができるようになります。
- 英語の授業はテンポがよくなければだめだと思う。よく授業を見に行っても、「この授業内容なら半分の時間でできるな」と思うことがある。そのためには、どこを削って、どこをテンポアップできるのかという視点が大切になる。

2.　Bingo：浜島書店 Let's Enjoy BINGO

(1)ビンゴの単語を読み上げ、発音と意味を確認する。

(2)5 列先にビンゴになるように、単語を読み上げる。

- 授業前に、ＢＩＮＧＯを終えるために、生徒は早めに教室に来てＢＩＮＧＯを書くことでベル着させる、正確に単語を書き写す、聞こえた単語を正確にチェックするなどの基礎的なトレーニングそして、英語力に関係なく誰でも平等に活躍する、勝者になれるチャンスがあるなど、私の授業にはなくてはならない活動です。これだけが英語の授業の生きがいと考えている生徒もいそうです…。

（参加者から）

- ＢＩＮＧＯを読む際に、最初の 3 文字だけを読むのはなぜか？
- リズムとテンポを大切にしているためです。

3.　Dictation

(1)教科書を範読する。

(2) 1 分間の勉強時間を与える。

(3) 再び音読し、適当な文のところで止め、最後の文を書き取らせる。

- 教師が読んだ最後の文を書きとる、Last Sentence Dictation を呼ばれる活動です。「復習とは前時のものだけではく、それまでやったすべてを含む」という言葉を大切に、1 年生の Lesson 1 から今やっている Lesson の前まで繰り返し繰り返し行います。2 年生になっても、3 年生になっても、繰り返すので、3 年生は、1 年生と 2 年生と 3 年生の 3 冊の教科書を毎回持ってくることになります。

（参加者から）

- 1 分間の勉強時間について説明してください
- ドラゴンボールの「精神と時の部屋」（そこで修行すると効果が何倍も上がる空間）です。テストが後に控えているという状況で教科書読んだり書いたりすることで、漠然と勉強するときの何倍も効果が上がると考えています。

- チェックはどうするのか？
- 授業後、私がすべてチェックします。たった 1 文できるかできていないかをチェックするだけなので、3 分くらいで終わります。

4.　Drill Activity：正進社たてよこドリル

(1)Chorus Reading：教師の後に続いて読みの確認

(2)Read & Read：20 秒間できるだけたくさん読む

(3)Read & Write：2 分間できるだけたくさん音読筆写する

5.　Communication Activity

(1) Guess Game：ペアで昨日の夕食に何を食べたのか当てるゲーム

(2)ペアで Guess Game をする

(3)1 MIN Speech：「昨日の夕食」についてペアで 1 分間会話を継続する

(4)3 Sentences Speech：「昨日の夕食」について、3 文からなるスピーチをする

- シンプルなルールで分かりやすく、さらに相手の夕食を当てるまで質問を繰り返さなければならないため、英語の練習量も確保できる、理想的な活動だと考えています。文型も選ばないため、Are you ～? Can you ～？ Have you ~？など様々な形に応用可能です。

（参加者から）

- 過去形は前のレッスンの目標文型だが、これは復習としてやっているのか？
- 過去形は生徒にとって非常に重要な文型ぜひしっかり身に着けてほしい。だから、「勉強した教科」「見たテレビ」「いった場所」「読んだ本」などいろいろなトピックを通して、様々な形の活動をさせ定着を図る。教科書は読み物教材であるので、目標文型もないので、ここで過去形を扱う活動を取り入れた。

- 文法の指導はどうしているのか？
- 事前に明示的な説明をすることはほとんどない。たくさん活動させたくさんその文型に触れさせ、ある程度生徒の中に文型についてイメージができてから、それをまとめる形で説明をするようにしている。

6.　Reading Practice

- 教科書音読します。範読→コーラス→個人読み→チェックの順番で進めます

（参加者から）

- 指名された生徒が読んでいるとき、ほかの生徒が聞きながら、自分はどれくらいの評価になるのかしっかり評価しているように感じる。つまり、人の音読や発表を聞いて、自分のダメなところを直すことができている。こういうことがクラスで起こってくると、どんどん英語ができるようになると思う。
- 私は新出単語を、レッスンの一番最初にすべて導入してしまう。その後、生徒のことを取り上げたインタラクションを通して習熟を図り、音読させるということを行っている。音読は基本ペアで行い前後、左右、クロスなど様々な形態をとりながら教え合いながらやるようにしている。
- 私は音読は一人 4 回読ませている。1 回読んだら横、2 回読んだら後ろのように回数ごとに回らせ、一番遅い生徒にアドバイスをするようにしている。
- タブレット使い、少しずつ単語を消していき、最後にはなにも書かれていない状況でも読めることを求めている。

7 Reproduction(13 分)

(1) Oral Introduction

(2) Presentation

- 教科書の内容を、要約して発表する活動です。これが最後にあるから、音読をしっかりする必要がある、そのために単語をしっかり練習する必要がある、そしてそもそもオーラルイントロダクションを聞いておく必要があるという私の授業の「必然性」を担っているとても大切な活動です。ただ、扱っている教科書の内容が「恋バナ」であり、「I don't like couple.カップルはムカつく」と発表する生徒や、最後にボランティアで発表した生徒が「I have girlfriends. Do you have a girlfriend? 僕は彼女がいるけど、君はどう？」と発言したり、公開するにはいかがなものかというノリの授業になってしまいました…。でもまぁそういう雰囲気を助長しているのは他ならぬ私です。

（参加者から）

- 生徒によっては、本文を暗記して吐き出しているような子も見られるがそれも大事である。この積み上げがコミュニケーションへとつながる。
- どう評価するかが、難しい活動である。私はペアでやらせて、自己評価をさせる。その後単元の最後にスピーキングのテストをし、先生の評価と生徒の評価を比較、組み合わせて評価する
- すべての活動について共通することだが、これまでのいろいろな活動の積み上げがあって、こういう授業になっていると感じる。だから、リプロダクションひとつを切り取って、明日自分の授業でやってもうまくいかないのだろうと思う。

最後に参加者一人一人から、まとめの感想と質問をいただきました。

- 流れるような授業展開であり、これまで培ったものが現れている授業だった。特にリプロダクションは黒板に流れがわかるように掲示しているのがいいと思った。参考にしたい。
- リズムとテンポがいい。これだけテンポがあるとたくさん活動をすることができる。密度の濃い授業になる。
- リーディングチェックの観点はどういう観点でおこなうのか？
  →毎回その本文の内容や生徒に身につけてほしいことなどから、異なる観点でチェックします。今回は「恋バナ」なので、感情をこめて読むように指導しました。
- 授業の最後に「接続詞を使って、文と文につながりを持たせるように」と指示していたが。それを次の時間にやり直しをさせるなど、指導内容がきちんとできるようになったか確認するチャンスはあるのか？
  →その生徒にやり直しをさせるということはない。ただ、全体的には繰り返し指導したり、指導したことを生かした発表すれば褒めるなどした。
- 5 拍手がなかなか出ないので、上位の生徒はそれを目指して張り切ってやると感じた。リプロダクションは難しいから、今やっているレッスンではなく少し前のレッスンをやるというアドバイスを受けたことがあるが、、この形ならば、今やっているところでもできるなと思った。

- いろいろな活動が 50 分内にあって参考になった。リプロダクションをやらせるときに、私は黒板に書きすぎる傾向がある。それだと読んでることになってしまうので気をつけたい。
- リプロダクションは毎回やっているのか？暗記させているのか？
  →毎回やっている。「暗記しろ」という指導はしない。でも結果的に英文は頭に入っているのではないかと思う。
- 佐藤先生は、活動ばかりをさせ、文法の解説はしない、予習をさせないというスタイルであるが、文法の解説をしなくてもいいいろいろな手を打ってあると感じた。不要な解説をやめてもっと活動させてもいいかなと思った。
- 密度の濃い 50 分で、話す・聞くチャンスがたくさんあり有効である。生徒も楽しみながらも適度な緊張感をもって授業をしている。
- 文法の説明はしないで、話す・聞くばかりだと、授業は楽しいけど、テストになったらできなくてがっかりするというよくあるパタンになりそうだが、どうするのか？
  →単元の計画上、3 文スピーチを書く活動がこの後にあり、それをそのまま、また似たようなテーマで定期テストの英作文問題を出題する。授業をしっかりやっていれば、定期テストで点数が低くてがっかりということはまずない。
- 附属中学校では、be 動詞と一般動詞を説明せずに、生徒にグループで話し合わせ考えさせるということをしている。
- よく鍛えられている。日本語で 1 分間会話を継続するのは難しい。また、単元の最初に「このレッスンではこうなればいい」とゴールを示している、そしてそれを継続しているのがいい。準備をしないで即興でスピーチをするというのは文科省が進めている活動にもあっている。ただ、活動が盛りだくさんで、どこかにゆっくり振り返る時間がればいいと思った。
- 自分の中学校時代の授業とは全く違って驚きと衝撃を受けた。文法を帰納的に学習させる、ペアの活動の後やらせっぱなしにしないで、必ずチェックするというのが勉強になった。

最後に野呂徳治先生からご指導をいただきました。

授業研究について

授業研究というとついつい活動やテクニックの交換会になってしまう。例えば、私と佐藤先生が、同じ指導技術を持っていても、絶対に同じ授業にはならない。それは、対象をはじめ様々な要因が異なるからである。だからこそ、こういう研究会では、一歩下がって理論として考えることが必要である。つまりそれは「その裏側で何が起こっているのか」を考えるということである。佐藤先生は、いろいろな活動の裏側を見て、自分なりに考えて、それを今日出してくれた。それに対して参加者の方からも、「私はこう思う」というのを返すことができたのならば、それはお互いにとって非常に有効な研究会となる。

ディクテーションとシャドーイングについて

これに関係することとして、ワーキングメモリがある。それは大きく以下の 3 つからなるといわれている。

１音韻ループ：音に関するものを貯蔵
２ビジュアルスケッチパッド：文字、画像に関するものを貯蔵
３エピソードバッファ：出来事に関するものを貯蔵

佐藤先生が提案された、ディクテーションはまさに、音韻ループを活性化させる、いわゆる「疑似シャドーイング」である。また、「初頭効果：最初に出されたものが残りやすい」と「親近性効果：最後に出されたものが残りやすい」ので、例えば、最後に読まれた文の一つ前の文を書かせるという活動も面白いと思う。

文法について

第二言語習得では以下のような流れで言語知識が習得されると考えられている。

1　仮説形成　たくさんのインプットから、自分なりの仮説を作る
2　仮説検証　新しいインプットを受けて、または実際に使って周りの反応を見て、仮説を確かめる
3　仮説修正　自分の仮説を修正する

これは１時間内でも起こりうることだが、当然、単元の中で、学年を通してなど長いスパンでも起こるのだという考えが大切である。

暗記も大事だかが、それを吐き出すだけだと、何のために使うのかがあいまいで、すぐに忘れてしまう。だから、それを実施にクリエイティブにアウトプットする機会を作ることが大切である。これがあるから習得したものが長期保存される。ただ、間違ったものも長期保存される（化石化）可能性がありこれだとまずいので、正しい英文を後日プリントとして配布し、文字として確認させると効果があるのではないかと思う。

授業評価について

人の記憶は曖昧である。だから音声や映像、授業の内容を書き起こしたもの、アンケートなどデータをもとに授業を分析することも必要である。なんとなくの印象評価でなく、厳密なデータに基づく授業研究の方法もわれわれ教師は身につけておく必要ある。

（資料参照）http://www.geocities.jp/tsukubaei5/spaltan/record/clsana.pdf

お知らせ

授業ビデオを送っていただければ、授業内での日本語と英語の割合、指示、発問、賞賛などどのカテゴリーの発話が多いのか診断します。詳しくはメールにてお問い合わせください。

第１回の研究会お疲れ様でした。まず、土曜に自分の時間を使って、研究会に参加するという先生方の熱意に感激です。これは生徒への愛情の裏返しと言ってもいいと思います。そんな先生方が近くにいる限り、たとえ参加者が一人だけという状況でも、スパルタンはそんな先生を応援するために研究会を続けたいと思います。お忙しい中参加くださった皆さん、本当にありがとうございました。（文責　佐藤）